

<新連載>

# ザイコロジ

①

そだちと臨床研究会

川畑 隆

## あらためてのご挨拶

「かけだ詩」3年間続いたんですって?!  
頑張ったんですね  
1回に8つずつだとして  
全12回で100近くですからね  
自分の書いたのを「詩」って言うのが  
恥ずかしいから  
「ちょっとした短文」なんて  
ひとには言ってたんですって  
でも「かけだ詩」ってタイトル  
だったんですよね

それで底を突いたんでしょうか  
どうもそれもあるらしいんですけど  
“在庫”もまだあるし  
書きたいこともまだあるし  
ということらしいですよ  
“在庫”ですかあ…

今度はふつうの文章も書くんですって  
詩みたいなものの後にですか?

それって詩の説明するってことでしょうか??  
だとしたらとっても恰好わるいんじゃない??  
屋上屋を架すって言うか  
「いまのギャグ、ココが面白いんですけど」  
みたいなもので…  
でも書きたいんですって  
まあ好きにさせときましょうか

## いいわけ

「在庫」と呼べる何かをもとに書く…まずは  
高校生時代に書いた歌詞を材料にして、そこから  
68歳の頭に浮かぶことを書きはじめようと思  
います。「懐古」は高齢者の常でしょうが、  
「展開」のきっかけになるかもしれません。  
高校生から社会人になってからのあいだに書  
いた歌詞は60ぐらいで、それらを眺めていた  
ら、駄作だと思っていたものもそれはそれでち  
よつといいかもなど思えてきたりして…。

最初は「在庫が切れたからといって昔のもの  
を持ち出すなんてやめとけ」…そんな声が自分  
の中で大きく聞こえていましたが、それもだん  
だん小さくなってきて、そのうち「人がどう思  
おうといいじゃない。だってワタシはサバサバ  
してるから…」と丸山礼さんが横に座っていま  
した(NHKでやってたドラマのことです)。

## 往生際がわるい

講演やワークが終わった後に、「コレをうま  
く伝えられなかった」「大切なことがモレてた」  
と気がついて、どうしようかと思案することが  
あります。「終わったことだし、もういいか」  
とケリをつける気持ちと「やっぱり伝えないと  
…」と焦る気持ちの両方に引っ張られながら、  
どちらにも転び得るわけですが、私は後者の方  
に転ぶ場合が結構あるんです。もちろん受講者  
に後から連絡が付きやすい場合に限られますが、  
つまり「往生際がわるい」し、講演やワークの

主催者に手間をかけてしまうことになります。でも性分だからしょうがありません。

その性分ですが、「往生際がわるい」部分はあるでしょうが、それで伝えたいことを伝えられるし、助かる人もいるかもしれません。人は100か0かではなく同時に2つ以上のことを考えているものだというのと同じように、意味や価値も同時に2つ以上が相乗りしていると考え、と、「往生際がわるい」という大きな声だけに負けて、他の意味や価値を捨ててしまうのはもったいないと思います。ですから、「往生際がわるい川畑」でもいいんです。

…そんなわけで、まずは高校生時代に戻ります。

### かぜをなおして

僕はいま君のこと考えてる  
ぽっかり空いた席を見つめながら  
僕はいま落書きしてる  
机の隅にかわいい人の名を

君はいま何を思ってるだろう  
ふとんの中で天井を見つめながら  
君はいまどんな顔してるんだろう  
つまなくてふくれているかしら

なんだか寂しい君のいない今日  
はやくかぜをなおして僕のために

君と僕気の合う二人  
太陽の下をぺちゃくちゃ喋りながら  
君と僕手をつなぎ歩こう  
元気になったら ね きっと

### はじめての歌詞

中3の頃に、家にあったギターを触りだしたように思います。吉田拓郎の夜のラジオを聴いていましたし、高校に入ると自由国民社の『新譜ジャーナル』を毎号買って泉谷しげるの『白雪姫の毒リンゴ』なんかもよく歌ってました。高田渡の「三条へいかなくちや…」っていう『珈琲ブルース』や、浅川マキの『赤い橋』『カモメ』なんかも好きでした。一方でモスグリーンフォークといわれた森山良子の歌も好きで、ブラザースフォーのレコードも小遣いで買ったりしていました。高1のときに友だちとはじめてコンサートに行きました。会場は住んでいた北九州の小倉の隣の八幡の体育館でしたが、吉田拓郎、赤い鳥、五つの赤い風船、ジローズを目の前で聴きました。吉田拓郎の『花嫁になる君に』のギターが格好よかった…。

『かぜをなおして』は高1の頃だと思います。たぶん初めて書いた歌詞です。曲をつけて一人でこっそり歌ってました。具体的な「君」はいませんでした。空席が目にとまって妄想をたくましくしたのでしょう。

### また朝が来た

また朝が来た 学校へ行かにならぬ  
仲のいいふとんに別れを告げる  
また朝が来た

さあさ出かけるよ まだ薄暗い外  
何だか知らない何かに期待をもって  
さあさ出かけるよ

僕はバスを待つ  
しかしながらなかなか来ない  
イライラしてくる 西鉄のバカ  
僕はバスを待つ

電車が通り過ぎる くもった窓の中に  
ぎゅうぎゅう詰めの男と女  
電車が通り過ぎる

僕は歩き出す バスをあきらめて  
時計を覗き込む 時間がない  
僕は走り出す

毎朝の繰り返し こうなるから仕方がない  
時計を覗き込む 時間がない  
僕は走り出す

## 犬

犬が寝ていました  
朝の光を浴びてました  
体を地面にピッタリ  
顔も寝そべってました

いつもは起きてるのですが  
今日はじめて見ました  
そのおだやかな寝顔は  
私をほんわかさせました

たぶん子犬だったのでしょう  
お父さんのまわりを  
クンクンとうろついていましたが  
やっぱり横に転がりました

オートバイが近づいてきます  
ここまで来ないでください  
どうか起こさないでね  
夢を見させてあげましょう

私は昔  
ドルという犬に噛まれたことがあります

だから今でも怖い  
そんな気持ちもあるのですが

でもやさしいですね  
かわいいですね  
憎めない顔をして  
精一杯のんびりしてました

私は時計を覗き込み  
カバンを抱え走り出しました  
汗がにじんできました  
もう犬は見えませんでした

あの寝顔が浮かんできました  
あと三分しかありません  
あの寝顔がムニャムニャ言いました  
おまえはいいねって言ってやりました

## 小倉高校

高校の通学が思い出されます。福岡県立小倉高校。自宅の最寄りのバス停まで 10 分くらい歩いて「小倉高校下(?)」までバスで 15 分。バスに遅れたときは裏道をひた走り。夏は汗びっしょりで、でも着替えはもっていませんから素肌密着自然乾燥にまかせていたんだと思います。『また朝が来た』に電車が出てくるんですが、バス停からは当時の国鉄の電車は見えなかったはずですよ。これは路面電車が走っていたということなんですか。でも走ってたかなあ？わかりません。『犬』はバスに乗れなかったときの裏道でのことです。覚えてはいませんが、「白い犬」だったと目の記憶が決め込んでいます。

中学ではバレーボール部(まだ 9 人制で、私は中衛の右でした)のキャプテンで、成績もよいほうだったので、まあ自己肯定感も保っていたように思います。兄二人が通った進学校の小倉

高校は安全圏ではありませんでしたが、受かってホッとしたのを覚えています。ところが、高1の最初の定期考査の成績は460人中300番台後半…。結局、私の出た中学校は成績レベルが低かったのです。そのこともあってバレーボール部には入らず、というか入る勇気がなかったのですが、かといって勉強に打ち込むわけでもなく、中途半端な高校3年間でした。でも、同じように成績のふるわない友だちがギターの名手で、土曜日になったら家人がどなたも不在の彼の家に行って自作の歌を披露したりしていました。その縁で高3の文化祭では舞台上で「みんなで歌おう」の伴奏バンドのサイドギターとボーカルを担当しました。それが高校生活のただひとつの私の「ハナ」だったように思います。ただ、私のボーカルは生徒会役員のマイクを通して大音量の歌声にかき消されてしまいました。

### 電話

今日はいるだろうと期待したのだが  
やっぱりちがった声をした  
いないのは朝も昼も そして夜に電話  
やっとな堵の声をした  
一回ですんなりいかなくて  
夜を待ったのだが  
何かしら大げさになったなあ  
ためらいはある  
前から言おうと気はあせってはいて  
今から言うから 聴いていてくれよね  
僕は君を感じよく思っていて  
自然に話したい いろんなふうにな  
しかし妙に意識してしまう この頃は  
やっぱり気楽に話したい 笑いながらね  
あらたまって言うのは  
おかしいかもしれないけど  
これからも僕の友だちでいてほしいのさ

電話が大切だと思ったから  
ちょっとかけてみただけで  
べつにどうでもいいとも思えるんだけど  
聴いてほしかっただけさ  
日は暮れ 公衆電話の風は冷たいけれど  
何かホッとした嬉しさはかくせない  
一日がかりの今日の僕の電話

### バス停

『また朝が来た』でバス停が出てきたので、『電話』を切り離せなくなってしまいました。高校生になって、小学校の同級生の女の子とバス停で時々顔を合わせることがありました。その子は中学から私立に通っていて、バス停は一緒でも乗るバスは別でした。時々顔を合わせると今日は会うかなどうかと予想しますし、そのうちそれが期待に代わります。特別に大きく好意を抱いていたわけではありませんでしたが、気になる存在でした。

バス停では一言二言かわすぐらいで、それ以上の交流はありませんでしたが、もうちょっとくっつきたい気持ちになったのだと思います。電話をかけて映画にでも誘ってみるかど決心して、電話した記憶があります。歌詞のとおり、そんな時はなかなかつながらないもので、やっとな話せたときには結構疲れがたまってたんじゃないでしょうか。「僕の友だちで…」なんて“安全パイ”みたいな台詞をホントに言ったかどうかは覚えていないし、映画に誘っただけかどうか不明です。でも、この記憶はたしかだと思っんですが、映画には行きませんでした。ということはどのレベルでかはわかりませんが、交渉不成立だったのです。次の日からバス停でどうだったかも、これまた覚えていません。

ここには載せませんが『デート』という歌詞もあって、それもその子をイメージして書いたものです。デートはしなかったわけで、でもよ

っぼどしたかったのだと思います。ただ恋焦がれて失恋というわけでもなかったの、「恋愛ごっこをやってみたかった」ということなのでしょう。

### 今さらの見栄

なんかずっと「軽い」高校生を描いたようで、昔のことであっても自分で自分を弁護しなくなってきました、青臭い灰色の歌詞は5mgほどでも「重たい」でしょうか。

### あれから二年たったんだ

あれから二年たったんだ  
一緒に勉強した友だちがそれぞれ自分の  
道を決め それぞれ違った夢を見る  
別れても道で会ったら声をかけようと  
言い交わした それなのに  
知らん顔して通り過ぎてく奴がいる  
人は離れてく 人は離れてく  
その虚しさに 僕は冷たい風を感じる

あれから二年たったんだ  
心を惹かれた女の子が途中で学校を  
やめて 化粧してスナックで働く  
事情があって苦しんで人が変わった  
みたいだという 一度会って話したい  
でももう話が合わないだろう  
人は離れてく 人は離れてく  
その虚しさに 僕はふと空を見上げる

あれから二年たったんだ  
とても親しかった一人の友がこれだと自分の  
道を決め 一人で離れた土地へゆく  
よく話した気のおけない間柄だった  
それなのに 今はたやすく会えなくて  
話すこともできない

人は離れてく 人は離れてく  
その虚しさに 僕は昔のアルバムをめくる

人はみんな自分から離れてゆく  
自分の知らない世界に入り込んでゆく  
その恐ろしさに その寂しさに  
僕は人間の孤独を思う

### どうしてこんなに悲しいんだろう

『あれから二年たったんだ』はそのタイトルからして高二か三の頃に書いたんだと思いますが、当時、一番好きでよく我鳴ってたのは、吉田拓郎の「どうしてこんなに悲しいんだろう」だったように思います。♪悲しいだろう／みんなおなじさ／おなじ夜を迎えてる／雨の中を一人歩けば／生きてることさえむなしいよ／これが自由というものかしら／自由になると寂しいのかい／やっと一人になれたからって／涙が出たんじゃ困るのさ／やっぱり僕は人にもまれて／みんなの中で生きるのさ♪…いま何も見ずにこの一番の歌詞を書いたのですが、覚えてますね。そして、『あれから二年たったんだ』は、きっと吉田拓郎のこの歌のような歌を作りたいと作っただと確信しました。高二の私が「人生ってむなしいね」としかめ顔・したり顔で一人うなずい♪てる自分が見える♪…『たどり着いたらいつも雨降り』になってしまいました(意味不明だったらごめんなさい)。

ところで、『あれから二年たったんだ』の2フレーズ目ですが、かつて“心を惹かれた女の子”について書いた“在庫”があるんです。サンヨーのワープロ専用機のプロッピーディスクに入ってるんですが、ディスクはあっても機械がありません。ザイコロジー②までにどうにかしなければなりません。